

D-4

音の印象に関するアンケート調査結果と文献記述の比較

Comparison of questionnaire survey and literature description regarding impressions of sound

○岩崎萌都¹, 富田隆太²* Moeto Iwasaki¹, Ryuta Tomita²

In this study, we conducted a questionnaire survey on the sound environment for university students and their families. We asked them about their impressions of the sounds they hear in their daily life and past sounds described in the literature such as old diary from Heian period to Meiji period. We analyzed the questionnaire survey results using techniques such as text mining, compared them with the literature, and considered them. As a result, the difference in impression of the sound and the difference between the modern and past sound environments were revealed.

1. はじめに

本研究では、歴史を遡り過去の音環境を考察しようとするものである。そのためには、様々な視点からの研究内容が考えられる。例えば、歴史的な事実が書いてある書物を探し、音環境の書かれている記載を考察する方法も一つの試みである。筆者らは現在それらについても研究を進めており、その結果を既報^[1]で報告した。既報^[1]では、平安時代から明治時代における音環境についての記述がある書物の内容をテキストマイニング等の手法を用いて分析した。また、過去との比較対象として、アンケート調査によって現代の音環境を調べることも一つの試みである。

本報では、アンケート調査を行う事で、現代の音環境や、現代の人々が音環境に対して抱く印象などを調べ、既報^[1]の結果との比較を行ったので、その結果を報告する。

2. 調査方法

本調査は、2021年6月から8月にかけて、学生等に対して、インターネットアンケートにより実施したものである。回答者の属性はTable 1の通りである。また、実施した調査の設問の中で、本報で扱うものはTable 2の通りである。なお、設問中の「快い」等といった音の印象を表す単語は、既報^[1]で調査対象とした文献中で見られたものである。

Table 1. Attributes of respondents

| 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 32 | 7 | 1 | 2 | 42 | 24 | 18 | 42 |

Table 2. Question list

| | |
|---|---|
| ① | 身近に存在する音で、「哀愁がある(物悲しい)」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ② | 身近に存在する音で、「快い」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ③ | 身近に存在する音で、「賑やか」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ④ | 身近に存在する音で、「風情がある(何とも言えない趣がある)」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ⑤ | 身近に存在する音で、「美しい」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ⑥ | 身近に存在する音で、「癒される」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ⑦ | 身近に存在する音で、「耳障り(聞いていて気に障る)」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |
| ⑧ | 身近に存在する音で、「奇怪(気味が悪い, 怪しい)」と感ずる音を可能な限り挙げてください。 |

3. 調査結果

得られた回答結果を対象に、特定の言葉の出現頻度と共起関係を探る分析方法であるテキストマイニングを実施した。このテキストマイニングには、樋口(2014)の開発したテキスト分析用ソフトである「KH coder」^{[2][3]}を用いた。記述の中の表記の揺れを統一し、テキストデータを作成し、共起ネットワーク分析を行った。分析結果をFig. 1に示す。

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

なお、「社会情報サービス」が開発したテキスト分析用ソフトである「トレンドサーチ 2015」のコンセプトマッパー機能を用いて、同一のテキストデータを分析したところ、ほぼ同様の結果を得ることが出来た。

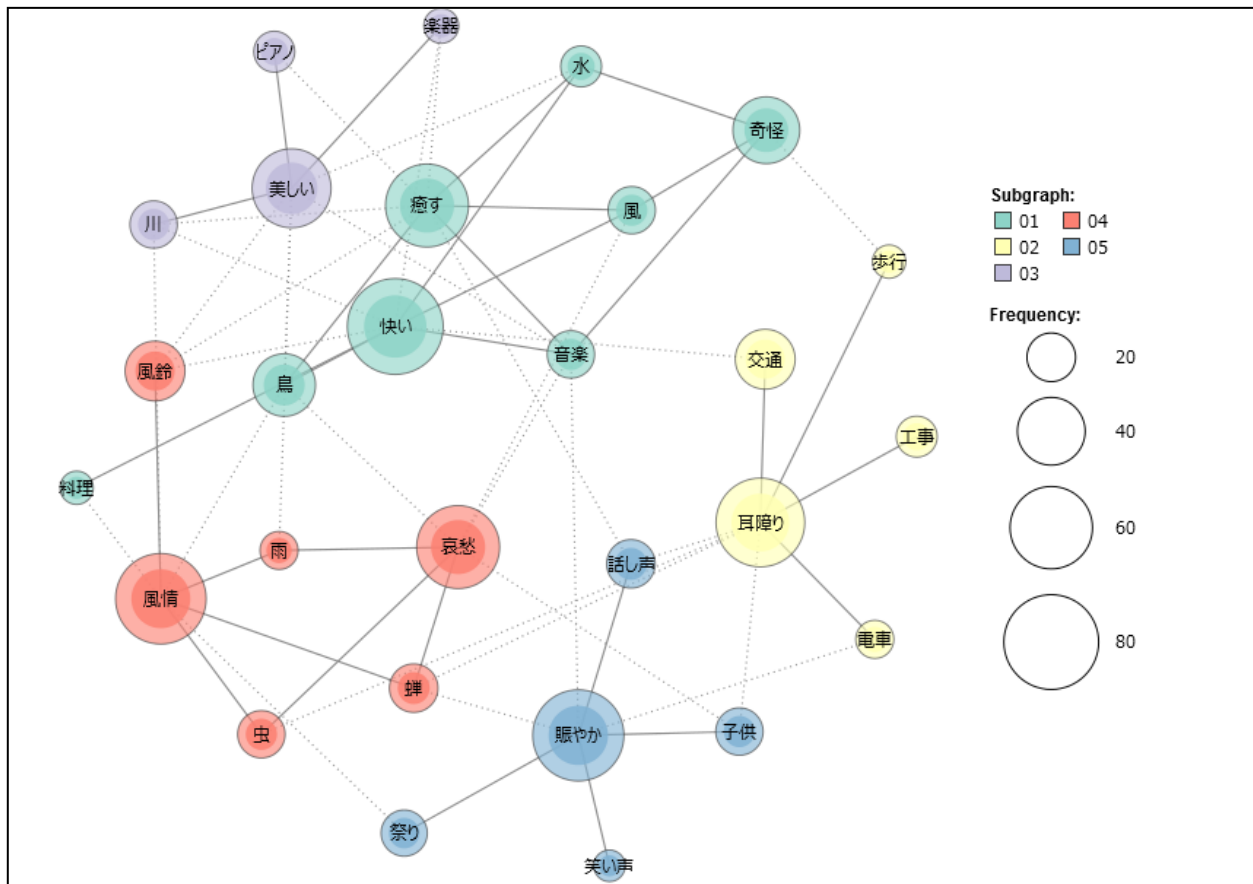


Figure 1. Co-occurrence network diagram

4. 考察

Fig. 1 と、既報^[1]で得られた「過去の音とそれに対する印象」に関する記述の共起ネットワーク図を比較し、現代の音と過去の音の比較を行う。Fig. 1によると、「快い」という印象を持たれる音として、「鳥」や「風」などの自然の音が見られる。これは既報^[1]でも同様に見られた傾向である。このことから、現在過去を問わず、人々は自然の音に対して好印象を抱きやすいということが考えられる。また、「耳障り」という印象に着目すると、「交通」「工事」「電車」などの現代的な騒音とされる音が多く挙がっている。既報^[1]によると、古い時代には電車などが存在していなかったこともあり、「耳障り」という印象を持たれる音としては「下駄」や「鶏」などが挙げられ、現代的な音は少なかった。これらのことから、時代の変遷とともに音環境も変化し、騒音とされる音も変わっていくことがわかる。

5. まとめ

今回行った考察は、比較的基本的な内容となっているが、文献調査やアンケート調査から音環境の変遷を考察するというあまり例のない研究を行う上では、地道に客観的データとして分析していくことが重要だと考えられる。この研究を発展させていくためにも、今後の課題として、アンケート回答者の年齢層を充実させることや、過去の音環境について記述されている文献の収集などを、更に行っていく必要がある。

6. 参考文献

- [1] 岩崎萌都, 富田隆太: 「平安時代から明治時代における文献による音環境の記述の考察」, 日本騒音制御工学会秋季研究発表会講演論文集, 2021.11(発表予定).
- [2] KH Coder, <https://kncoder.net/>, (参照: 2021.9)
- [3] 樋口耕一: 「社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-」第2版, ナカニシヤ出版, 2020.4